

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|-----------------|------------------|----------------|-----|
| ○事業所名 | 児童発達支援 スマイル北田辺店 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 12月 15日 | | ～ 2026年 1月 30日 | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 26名 (きょうだい利用2家庭) | (回答者数) | 26名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 1月 15日 | | ～ 2026年 1月 30日 | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6名 | (回答者数) | 6名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 15日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 職員の共感的態度と家庭との強固な信頼関係として、職員による「共感的支援」への評価が100%であり、「親子共に支えていただきありがたい」といった感謝の声が多く寄せられています。連絡帳や口頭での丁寧なフィードバックを通じ、家庭と事業所が二人三脚で発達を支える体制が整っていることが最大の強みです。 | 「遊び」を通じた多角的な活動プログラムの提供で活動内容が固定化されないよう工夫しており、自由記述でも「毎回様々な活動を取り入れて刺激になっている」との評価をいただいています。子どもの興味を引き出しながら、5領域をバランスよく刺激するプログラムを構築しています。 | 「保護者交流」と「きょうだい支援」の具体的な機会提供については、アンケートで「わからない」との回答が見られた保護者同士の交流や、きょうだい向けイベントの開催をより具体化します。療育施設等のオープンスペースも活用し、家族全体を包み込むコミュニティ機能を強化します。 |
| 2 | 多職種の専門性を活かした個別支援計画の質として個別支援計画の作成・説明に関する満足度が非常に高く(96.2%)、保護者様から「細かく丁寧に計画を作成してもらっている」「家庭での関わり方の参考になる」と高い信頼を得ています。専門的知見に基づく分析が、家庭での療育力の向上にも寄与しています。 | ICTと対面を組み合わせたきめ細やかな情報共有をしています。日々の様子を伝える連絡帳やSNSでの発信に加え、面談や助言等の機会を定期的に設けています。保護者様が「今、どのような支援を受けているか」を常に把握できるよう、透明性の高い運営を意識しています。 | 「防災・安全対策」の見える化と参加型訓練の検討については避難訓練等の実施状況が伝わりにくいというご意見(23.1%がわからない)を踏まえ、訓練の様子を通信やSNSで詳しく報告します。また、利用日に合わせた参加型訓練の実施など、安心感を高める工夫を凝らします。 |
| 3 | こどもの安心感と通所意欲を育む環境として子どもたちの通所満足度が高く、「清潔で心地よい空間」づくりが100%評価されている点です。構造化された環境の中で、子どもたちが「スマイルに行くのが楽しみ」と言えるような、安心できる居場所を提供できています。 | 専門性を高めるための継続的な職員研修と家族支援で家族支援プログラム(ペアトレ等)や研修会の実施により、事業所内だけでなく家族のスキルの底上げを支援しています。保護者様からも「対応の引き出しが増える」と期待されており、学びの場の提供に力を入れています。 | 「活動プログラム」のバリエーション拡充(食育・クッキング等)について、今回ご意見にあった「クッキング等の経験機会」へのニーズに応え、衛生管理を徹底した上での食育活動や、より多様な実体験を通じた社会適応支援のプログラムを拡充していきます。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 非常災害時訓練の実施内容に関する周知不足 アンケートの結果、「わからない」という回答が23.1%に上り、訓練の頻度や内容が保護者様に十分に伝わっていない点が課題です。 | 情報発信ツールの活用不足とタイミングのずれ 避難訓練等は定期的には実施していますが、利用日以外の保護者様への共有が不十分であり、活動の「可視化」が追いついていないことが要因です。 | 写真や動画を活用した「安全対策レポート」の発信 避難訓練の様子をSNSや連絡帳アプリ等で積極的に写真共有し、当日参加できなかった保護者様にも訓練内容が明確に伝わるよう工夫します。 |
| 2 | 保護者同士の交流会やきょうだい支援の機会不足 家族への支援において「いいえ」「わからない」の回答が目立ち、保護者様からも「きょうだい向けのイベントが分かりにくい」との指摘を受けています。 | コロナ禍以降の対面イベント開催の停滞 これまで感染症対策を優先し、集団での保護者交流やイベントを自粛・縮小してきたため、支援の周知や機会の提供が遅れてしまいました。 | 保護者コミュニティの再構築ときょうだい支援の定例化 2025年3月から開業中のカフェ等のスペースも活用し、気軽に参加できる「茶話会」や、きょうだいも一緒に楽しめるイベントを計画的に開催します。 |
| 3 | 送迎時や緊急時における職員配置の安心感向上 全体的な配置数は足りているものの、送迎時などの特定の時間帯において、より手厚い体制を望む保護者様のニーズに応えきれていない側面があります。 | 多忙な時間帯における体制説明の不足 送迎時などの慌ただしい時間帯に、職員がどのような役割分担で動いているのかという具体的な説明が不足しており、保護者様の不安を招いてしまったと考えられます。 | 時間帯別の職員配置の見える化と丁寧な状況説明 送迎時の対応体制について改めて周知を行うとともに、万が一の際の対応マニュアルを再確認し、保護者様がより安心してお子様を預けられるよう説明責任を果たします。 |